

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立花山中学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	2年の学年生徒114名を対象に、各学級の道徳の授業で実施 1組 28名 2組 28名 3組 29名 4組 29名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳 多様性と共生社会 — インクルーシブな社会を考える —) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラリンピックの競技大会の理念を知ること、今の社会で、すべての人が心地よく暮らすための方法を考え、すべての人がともに生き、参画でき、活躍できる社会を考える。
5 取組内容	○パラリンピックの映像を視聴し、シンボルマークに込められた意味や理念、そしてパラアスリートの思いを知る。 

○多様な個性を持つ人々との関わりについて、どうやってコミュニケーションをとっていくかなどを班活動で考える。

<ケース1>聴覚障がい者の方の道案内の方法

<ケース2>視覚障がい者の方の道案内の方法



○共生社会の実現に向けて、取り組みを実践している企業のビデオをみて、自分ならこんな工夫をしたい、こんなことを大切にしてインクルーシブな社会(共生社会)を作っていきたいなど、考え発表する。



6 主な成果

障がいのある人に関して理解を深める教育や、障がいのある人との関わりについて学ぶ機会はいままで、何度もあった。今までの学習は、現在の自分と障がいのある人との関わりに焦点を当てたものであった。

今回の学習は、当然、障害のある人とのコミュニケーションの取り方を考え、ともに活動をしていくときに大切にしたいことなどを考えさせた。この学習を通して、これからの社会に必要な力を身につけ、生徒自身が、共生社会(インクルーシブな社会)を作り上げていく意識を持たせることができた。

<p>7実践において 工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>道徳の授業として、2年学年の教師みんなが授業できるように、事前に研修を行い、各クラス担任が、自分のクラスの生徒に授業を行った。 保護者に授業を参観していただく予定であったが、社会状況を踏まえて、参観を見送る形となったことが、残念である。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>ビデオ視聴を中心としながら、個人で考え、班活動でも考える学習であった。実際にパラリンピアンであったり、社会に出て働いている障がいのある人に来校して、講演してもらおうほうが、より深い学習になったのではないかと思う。</p>
<p>9来年度以降の 実施予定</p>	<p>継続して、道徳の授業で、実施していくことを予定している。</p>